

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	名陸流通株式会社
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	名古屋市守山区新守山2905番地
工場等の名称	名陸流通株式会社 メイリクビル
工場等の所在地	名古屋市守山区新守山2905番地
業種	運輸業、郵便業
業務部門における 建築物の主たる用途	事務所
建築物の所有形態	自社ビル等（自ら所有し自ら使用している建築物）
事業の概要	貨物自動車運送事業、倉庫事業、人材派遣業
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和5年7月25日 ～ 令和5年10月23日		
公表方法	○	掲示 閲覧	（場所）メイリクビル2F 窓口
		ホームページ	（HPアドレス）
		冊子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	052-794-6511		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

当社は地球温暖化の重大なる問題点を認識し、環境保全につながる事業展開を推進し、事業活動のあらゆる分野を通じて、持続的発展が可能な会社の実現に貢献します。

①経済運転によるエコドライブの推進

急加速・急発進の抑制に努め、待機時間のアイドリングを極力少なくします。

②省エネルギー活動の推進

事務所で使用する電気使用エネルギー使用料を、令和6年度までに令和3年度比3%削減します。

③環境保全を配慮した自動車の利用

事務所で運行管理している自動車の使用燃料を、令和6年度までに令和3年度比3%削減します。

④環境を考えた自動車の導入

低公害車を令和6年度までに全保有数の70%に構成にします。

(2) 地球温暖化対策の推進体制

地球環境委員会

推進委員会：専務取締役

推進員：エコ推進員

↓

社員

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 4 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,842	t-CO ₂
（温室効果を除く二酸化炭素換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		1,842	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量及び原単位排出量
------------------	--------------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度		令和 5 年度	
温室効果ガス総排出量	1,921	t-CO ₂	1,748	t-CO ₂	1,842	t-CO ₂		
削減率（対基準年度）			9.0	%	4.1	%		
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		
削減率（対基準年度）						%		

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度		令和 5 年度	
原単位あたりの排出量								
削減率（対基準年度）				%		%		%
原単位あたりのみなし排出量								
削減率（対基準年度）						%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

令和4年度目標達成につきまして報告いたします。
 一番の要因は軽油の使用料の減少にあります。
 エコドライブの徹底と新車の導入が進み、使用料の減少につながりました。
 令和3年度以降も徹底したいと思います。

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
- 備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

[illegible]

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目（令和 4 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 1 年度目（令和 4 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況